



カブトムシが^{ちちゅう}地中にもぐるとき、なぜ^め目に^{つち}土が^{はい}入らないの

カブトムシの^め目には、まぶたがない

カブトムシの^め目は、^{にんげん}人間の^め目のように、まぶたはありません。
^{にんげん}人間の^め目は、^め目の^{たま}玉が^{うご}動きやすいように、いつも^{なみだ}なみだが^め目の^{ひょうめん}表面をぬらしています。
 なみだは、^{ちい}小さい^{ごみ}ごみなどを^{あら}洗い^{なが}流す^{やくめ}役目もしています。^{にんげん}人間の^め目の^{ひょうめん}表面は^{きず}やわらかく、^{きず}傷が^{つき}つきやすい^{ため}ため、^{なみだ}なみだがか^{わい}わいて^{しま}まうと、^め目の^{ひょうめん}表面が^{いた}痛^くくなります。そこで、^め目が^わわかない^{よう}よう、^{また}また、^{ごみ}ごみなどが^{はい}入らない^{よう}ように、^{にんげん}人間には、まぶたがあります。

カブトムシの^め目は、^{つち}土が^{はい}入らない

カブトムシの^め目は、^{ちゅう}たいいていの^{こん}こん^{ちゅう}虫が^ももっている、^{ふくがん}複眼とよばれる、^{ちい}小さい^め目がいくつも^ああつまって^{でき}できた^め目をして^{いま}います。一つ一つの^め目の^{ひょうめん}表面は、^かかたくて^{じょうぶ}じょうぶに^{でき}できて^{いま}います。ですから、^{つち}土にもぐるときも、^{つち}土が^{どん}どんなに^くくっついて^もも、^{すこ}少しも^{いた}痛くない^{です}し、^{にんげん}人間のように、^{つち}土が^め目に入^ることも^{ない}のです。

カブトムシは、^{にんげん}人間ほど、^め目はなくても^ここまら^{ない}ない

カブトムシは、^{ひる}昼間は^お落ち^ば葉の^{した}下などで^ねねていて、^{よる}夜活動する^{むし}虫で、^{やこう}夜行性^{です}です。また、^{おい}おいをと^らえ^るのが^{びん}びん^{かん}感なので、カブトムシは、^{にんげん}人間のように、^め目に^たたよって^{せい}生活^{して}いない^{よう}ようです。ですから、^{それ}それほど^{いい}いい^め目ではない^{ので}しょう。(監修・中山 周平)

